

障害科学学位プログラム (博士前期課程)  
Master's Program in Disability Sciences

授与する学位の名称	修士(障害科学) [Master of Arts in Disability Sciences]	
人材養成目的	研究者養成の第一段階として、障害科学の科学的・実践的な研究を推進しうる研究基礎力をもった研究者、または科学的な基盤を有し、実践の場での確に能力を発揮する、国内外のリーダーとなりうる有能な特別支援教育の教員や障害者支援の高度専門職業人を養成する。	
養成する人材像	障害科学の基礎的、実践的な知識技能に基づいて、障害の本質の解明、また障害特性の解明を通して支援技術の開発・応用に携わることができる人材。	
修了後の進路	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博士後期課程に進学して、高等教育機関の教員あるいは独立行政法人等における研究者</li> <li>・特別支援学校や特別支援学級・通級指導教室の高度な専門性を有する教員</li> <li>・障害のある人を対象とした療育機関や福祉施設の高度な専門性を有する職員</li> </ul>	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の活用力: 高度な知識を社会に役立てる能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 研究等を通じて知を社会に役立てた(または役立てようとしている)か</li> <li>② 幅広い知識に基づいて、専門分野以外でも問題を発見することができるか</li> </ul>	障害科学調査・実験実習Ⅰ・Ⅱ、障害科学研究法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、視覚障害学特講Ⅰ・Ⅱ、聴覚障害学特講Ⅰ・Ⅱ、運動障害学特講Ⅰ・Ⅱ、病弱特講Ⅰ・Ⅱ、知的・発達・行動障害学特講Ⅰ・Ⅱ、言語障害学特講Ⅰ・Ⅱ、障害福祉学特講Ⅰ・Ⅱ、障害原理論特講Ⅰ・Ⅱ、理療科教育特講Ⅰ・Ⅱ、修士論文作成など(下線部は必修科目)
2. マネジメント能力: 広い視野に立ち課題に的確に対応する能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 大きな課題に対して計画的に対応することができるか</li> <li>② 複数の視点から問題を捉え、解決する能力はあるか</li> </ul>	障害科学調査・実験実習Ⅰ・Ⅱ、障害科学研究法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、海外特別研修セミナー、修士論文デザイン・中間・最終発表など(下線部は必修科目あるいは修了要件)
3. コミュニケーション能力: 専門知識を的確に分かりやすく伝える能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 研究等を円滑に実施するために必要なコミュニケーションを十分に行うことができるか</li> <li>② 研究内容や専門知識について、その分野だけでなく異分野の人にも的確かつわかりやすく説明することができるか</li> </ul>	障害科学調査・実験実習Ⅰ・Ⅱ、障害科学研究法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、視覚障害学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、聴覚障害学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、運動障害学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、病弱演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、知的・発達・行動障害学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、言語障害学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、障害福祉学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、障害原理論演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、理療科教育演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、修士論文デザイン・中間・最終発表、相談活動など(下線部は必修科目あるいは修了要件)
4. チームワーク力: チームとして協働し積極的に目標の達成に寄与する能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>① チームとして協働し積極的に課題に取り組んだ経験はあるか</li> <li>② 自分の研究以外のプロジェクト等の推進に何らかの貢献をしたか</li> </ul>	障害科学調査・実験実習Ⅰ、特別支援学校教育実習、視覚障害学演習Ⅰ・Ⅱ、聴覚障害学演習Ⅰ・Ⅱ、運動障害学演習Ⅰ・Ⅱ、病弱演習Ⅰ・Ⅱ、知的・発達・行動障害学演習Ⅰ・Ⅱ、言語障害学演習Ⅰ・Ⅱ、障害福祉学演習Ⅰ・Ⅱ、障害原理論演習Ⅰ・Ⅱ、理療科教育演習Ⅰ・Ⅱ、TA 経験、相談活動など(下線部は必修科目)
5. 国際性: 国際社会に貢献する意識	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する意識があるか</li> <li>② 国際的な情報収集や行動に必要な語学力を有するか</li> </ul>	障害科学研究法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、海外特別研修セミナー、Special Lecture on Disability Sciences、国外での活動経験、留学生との交流など(下線部は必修科目)

<p>6. 研究計画実行力: 障害科学に関する研究を計画実行する基礎的な知識・能力</p>	<p>① 障害科学に関する知識に基づき、重要な課題に対して研究計画を立案することができるか ② 立案した研究計画について発表を行い、適切に修正し、研究を実行することができるか</p>	<p>障害科学調査・実験実習Ⅰ・Ⅱ、障害科学研究法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、障害科学講究、視覚障害学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、聴覚障害学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、運動障害学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、病弱演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、知的・発達・行動障害学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、言語障害学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、障害福祉学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、障害原理論演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、理療科教育演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、修士論文作成、<u>修士論文デザイン・中間・最終発表</u>など(下線部は必修科目あるいは修了要件)</p>
<p>7. 障害に関する理解力: 障害科学に関する幅広い知識をもち、それを活用する能力</p>	<p>① 障害科学に関する知識や技術および現状や課題について理解し、説明することができるか ② 専門的知識に基づいた障害科学に関する研究課題を見出し、解決を図ることができるか</p>	<p>障害科学調査・実験実習Ⅰ、視覚障害学特講Ⅰ・Ⅱ、聴覚障害学特講Ⅰ・Ⅱ、運動障害学特講Ⅰ・Ⅱ、病弱特講Ⅰ・Ⅱ、知的・発達・行動障害学特講Ⅰ・Ⅱ、言語障害学特講Ⅰ・Ⅱ、障害福祉学特講Ⅰ・Ⅱ、障害原理論特講Ⅰ・Ⅱ、理療科教育特講Ⅰ・Ⅱ、修士論文作成、<u>修士論文デザイン・中間・最終発表</u>など(下線部は必修科目あるいは修了要件)</p>
<p>8. 倫理に関する理解と態度: 障害の理解及びそれに伴う困難の解消に向けた研究実践に必要な倫理手続きを行う能力</p>	<p>① 障害科学に関する倫理講習を受講し、終了しているか ② 障害科学に関する研究に必要な倫理観と倫理的知識を理解し、研究を実施することができるか</p>	<p>障害科学調査・実験実習Ⅰ・Ⅱ、障害科学研究法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、障害科学講究、視覚障害学演習Ⅲ、聴覚障害学演習Ⅲ、運動障害学演習Ⅲ、病弱演習Ⅲ、知的・発達・行動障害学演習Ⅲ、言語障害学演習Ⅲ、障害福祉学演習Ⅲ、障害原理論演習Ⅲ、理療科教育演習(下線部は必修科目)</p>

学位論文に係る評価の基準

- ・修士論文の指導においては、指導教員の指導による構想を経て、学位プログラム全体でのデザイン発表会、中間発表会によって、研究の計画と実施の進捗状況を確認し、修士論文の完成・提出に向けた指導を行う。各発表の発表内容及び質疑応答、発表後の指導助言とその対応によって評価する。最終発表会においては、研究内容・成果の発信力を評価する。修士論文発表と連動した授業科目において、評価を反映する。評価はA+、A、B、C、Dの5段階評価とする。
- ・修士論文の評価は、提出された論文の査読と最終発表会における発表内容及び最終試験の結果により、以下の観点から総合的に行う。
  1. 関連分野の国内外の研究動向及び研究の把握に基づいて、障害科学分野における当該研究の意義や位置づけが明確に述べられていること
  2. 障害科学分野の発展に寄与するオリジナルな研究成果が、修士論文に相応しい量含まれていること
  3. 研究公正についての十分な知識に基づき、研究結果の信頼性が十分に検証されていること
  4. 研究結果に対する考察が妥当であるとともに、結論が客観的な根拠に基づいていること
  5. 研究の背景、目的、方法、結果、考察、結論等が、当該分野の修士論文に相応しい形式にまとめていること
 上記について学位論文提出までのデザイン発表、中間発表、最終発表には論文指導教員1名(委員長)、副指導教員2名(委員)の計3名で構成される研究指導委員会が指導にあたる。提出された論文に対しては、主査1名、副査2名の計3名による学位論文審査委員会において、審査、評価を行う。

カリキュラム・ポリシー

障害科学学位プログラム(博士前期課程)においては、障害科学の基礎的、実践的な知識技能を身に付けるとともに、障害の本質や障害特性を探索し解明する力を培い、研究基礎力を身に付ける。また、この研究基礎力を基盤に、支援技術の開発・応用に携わる力を身に付ける。その際、中心的な専門領域における研究力・専門知識・倫理観とともに、関連する分野の基礎的素養や広い視野、社会の多様な場での活躍を支える汎用的知識・能力を養うための教育・研究指導を行う。

<p>教育課程の編成方針</p>	<p>・基礎科目は、障害科学の基盤となる中核科目群であり、3つの進路につながる障害科学の研究基礎能力を身に付ける。専門基礎科目は、障害や障害の特性に関する理解力と障害に関わる教育・福祉の理念・制度・支援方法に関する理解力等の高度専門職業人として必要な知識技能を身に付ける科目群として設定する。専門科目は、理念・制度・障害特性から生じる個のニーズ等の様々な観点のうち、3つの進路に即して、学生の修学の必要性や興味関心に応じながら、特定の専門領域の知識技能を深く身に付ける科目群として設定する。</p>
------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害科学調査・実験実習Ⅰ・Ⅱにより、研究計画実行力と倫理に関する理解と態度を身に付ける。</li> <li>・障害科学研究法等その他の基礎科目により、研究計画実行力に加え、研究・実践の橋渡し力を身に付ける。</li> <li>・専門科目(共通)の科目群により、障害に関する理解力およびサービスの開発実行力を身に付ける。</li> <li>・専門科目群のうち、特講科目によって、各障害専門領域あるいは理念・制度等の障害横断領域ごとの研究計画実行力、障害に関する理解力を身に付ける。</li> <li>・専門科目群のうち、演習科目によって、各障害専門領域あるいは理念・制度等の障害横断領域ごとのサービスの開発実行力、研究・実践の橋渡し力、倫理に関する理解と態度を身に付ける。</li> </ul>
学修の方法 ・プロセス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎科目の必修科目から5単位、専門科目における専門領域の科目(学生が特に専門に修学する領域で原則として論文指導教員が担当する特講Ⅰ・Ⅱ、演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)の7単位、その他の科目(大学院共通科目、基礎科目の選択科目、専門科目(共通)、専門科目における専門領域の科目以外の特講Ⅰ・Ⅱ、演習Ⅰ・Ⅱ)から18単位以上を修得し、合計で30単位以上を修得することとする。</li> <li>・修士論文作成に係る研究指導は、1年次基礎科目「障害科学調査・実験実習Ⅰ・Ⅱ」(必修)、2年次基礎科目「障害科学研究法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」(必修)、ならびに、2年次専門科目「演習Ⅲ」(選択必修)で、組織的・体系的に行う。</li> <li>・障害科学の研究者を目指す学生は、研究者養成の第一段階として、基礎科目による研究基礎力の修得と専門科目による障害専門領域・横断領域ごとの専門的知識技能の修得に重点を置いた履修とする。</li> <li>・特別支援学校や特別支援学級の教員を目指す学生は特別支援教育分野の高度専門職業人として、基礎科目による研究基礎力の修得と専門基礎科目群から特別支援教育に関する理念・制度、障害のある児童生徒の生理・心理・教育課程・指導法等に関する科目の履修による知識技能の修得に重点を置いた履修とする。</li> <li>・障害のある人を対象とした療育機関や福祉施設の職員を目指す学生は、障害者支援分野の高度専門職業人として、基礎科目による研究基礎力の修得と専門基礎科目群から障害発達臨床・支援等に関する科目の履修による知識技能の修得に重点を置いた履修とする。</li> </ul>
学修成果の 評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修士論文の指導においては、指導教員の指導による構想を経て、学位プログラム全体でのデザイン発表会、中間発表会によって、研究の計画と実施の進捗状況を確認し、修士論文の完成・提出に向けた指導を行う。各発表の発表内容及び質疑応答、発表後の指導助言とその対応によって評価する。最終発表会において、研究内容・成果の発信力を評価する。修士論文発表と連動した授業科目において、評価を反映する。評価はA+、A、B、C、Dの5段階評価とする。</li> <li>・修士論文の評価は、提出された論文の査読と最終発表会における発表内容及び最終試験の結果により、以下の観点から総合的に行う。 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 関連分野の国内外の研究動向及び先行研究の把握に基づいて、障害科学分野における当該研究の意義や位置づけが明確に述べられていること。</li> <li>② 障害科学分野の発展に寄与するオリジナルな研究成果が、修士論文に相応しい量含まれていること。</li> <li>③ 研究公正についての十分な知識に基づき、研究結果の信頼性が十分に検証されていること。</li> <li>④ 研究結果に対する考察が妥当であるとともに、結論が客観的な根拠に基づいていること。</li> <li>⑤ 研究の背景、目的、方法、結果、考察、結論等が、当該分野の修士論文に相応しい形式にまとめていること。</li> </ol> </li> <li>・各科目のうち講義科目は、ショートレポート・リアクションペーパー・小テスト等による形成的評価と期末試験・レポートによる総括的評価により、原則として100点満点で総合的に行う。</li> <li>・演習・実習科目は、毎時間の活動における評価と期末レポートによる総括的評価により、原則としてA+、A、B、C、Dの5段階評価で総合的に行う。</li> </ul>
アドミッション・ポリシー	
求める 人材	<p>障害に関わる、生涯の教育・福祉の支援、行政、国際協力等への貢献を志す人材で、研究者や高度専門職として、この分野での活躍に意欲のある人材を求める。学部段階で障害科学の基礎を学習した者、または障害科学以外の専門分野の出身で、障害科学を専門的に学ぼうとする者、教員・社会人、医療系の資格を有する者、外国人留学生等を幅広く受け入れる。</p>
入学選抜 方針	<p>一般、推薦、社会人特別選抜の3種類の入学試験を実施する。また長期履修制度による課程修了も可能とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般入試では、外国語(英語)、障害科学に関する専門科目、口述試験を通して審査する。</li> <li>・推薦入試では、障害科学に関する専門知識と英語能力、及び科学的・論理的な思考についての論述形式の筆記試験、ならびに研究計画等に関する口述試験を通して審査する。</li> <li>・社会人特別選抜では、受験生のこれまでの実践あるいはその背景にある知識や技能を中心に審査する。</li> </ul>